住人データ

夫（40代）会社員

妻（20代）会社員

長女（1歳）

ら川沿いを眺めるダイニングで団らん。タイルはカフェで使われていたのを見て色と艶にひかれ、直接問い合わせて発注した。

魅力を感じるようになったという。「しっかりとしたコクに、ほどよい酸味のあるものが好みです」。両国にテイスティングバーのある「Sing e O Japan」をはじめ、鹿児島「ヴォアラ珈琲」、山形「オーロラコーヒー」など個性豊かな全国の焙煎人の豆と出会い、日々淹れ方を探究。海外出張時も現地の焙煎所を訪ねるなど造詣を深めていった。

約2年前にリノベーションした住まいは、自らのコーヒースタイルが表れた空間だ。「新築にも既存の一軒家にも出せない趣がある」と中古マンションを選び、ダイニングの壁はコンクリートの躯体を現しに、テーブルやベンチなどの家具はアイアンと木で統一。武骨で無機質な素材を多用して全体をダークな色味でまとめ、随一の嗜好品が似合う空間に仕上げた。キッチンのオープン棚にはブリューワーやサーバーといった愛用の道具がいくつも並び、さながらスタンドのような風情を醸し出す。淹れるのは主に週末。夕方、見晴らしのいいテーブル席で口にすると、幸せを感じるという。

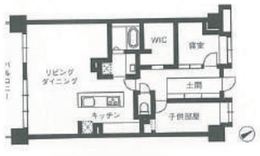
「駅前でも商店街近くでもなく、決して便利な場所ではないんです。でも、なんだかホッとくつろげます」

仕上げ

[illegible]・土間〉床：モルタル金ゴテ＋防塵塗装　壁・天井：クロス
[illegible]K・廊下〉床：複合フローリング、塩ビタイル
[illegible]クロス　天井：躯体現し＋防塵塗装、クロス
[illegible]室〉床：カーペット　壁・天井：クロス
[illegible]室・トイレ〉床：塩ビタイル　壁・天井：クロス

[illegible]メーカー

[illegible]ッチン〉LIXIL　〈レンジフード〉富士工業
[illegible]室〉TOTO　〈トイレ〉TOTO
[illegible]明〉コイズミ照明、アサヒ、オーデリック、TOSHIBA



nu by renovation

エヌ・ユーリノベーション
物件探しから設計・施工・アフターサービスまでワンストップでサポート。ヒアリングを重視し、住む人の価値観を汲み取ってデザインに活かす提案力に定評がある。写真は「VINTAGE ×アンティーク」の設計を担当した原布慈子。

東京都渋谷区広尾1・7・20 DOT
0120・453・553
info@n-u.jp
n-u.jp

左・自転車も置ける土間玄関。愛用のスニーカーは見せて収納。
右・玄関の壁にはアンプをかたどったユニークなキーホルダー。

空間も道具もモノトーンで統一。「蒸らしは30秒。お湯をまんべんなくまわし入れます」

川沿いの静かな住宅地にある、とあるマンション。深みある黒いタイルを貼ったオープンキッチンに立ち、使い慣れた道具を手にハンドドリップでコーヒーを淹れるのが林大介さんの週末の楽しみだ。

「一つひとつ丁寧に、がおいしさの秘訣です」と話す林さんがコーヒーに親しむようになったのは、仕事がきっかけ。転職した会社がコーヒー器具を手がけていたのだが、当時つくり手が見える豆の個性を引き出して楽しむ、いわゆるサードウェーブの到来と重なっていた。かつて趣味の音楽活動や学生時代に雑貨店でアルバイトした経験があった林さんはコーヒーの背景にある文化に触れ、「単なる飲み物ではない、音楽やファッション、インテリアにつながる洗練された世界がある」とその

2

VINTAGE×アンティーク
（埼玉県川口市）
〈設計・施工〉
nuリノベーション

DATA

〈専有面積〉66.34㎡〈バルコニー面積〉12.40㎡〈主要構造〉鉄筋コンクリート造〈既存建物築工〉2001年〈リノベーション竣工〉2016年〈設計期間〉約2ヶ月〈工事期間〉約2ヶ月〈総工費〉900万円（税別、設計料別）

MY CAFE LIFE

コーヒー道具のプロが愛用品と暮らす、モノトーン×木の空間

飲み物の域を越えた独自のスタイルに魅せられ、仕事でもプライベートでも愛好。リノベした理想の空間で、週末は至福の一杯を楽しんでいる。

text_ Makiko Hoshino　photograph_ Osamu Kurihara

TIPS FOR COFFEE

スムーズに動けて感性に響く道具を選ぶ

道具は林さんの勤務先「KINTO」のものを愛用。曲線の注ぎ口で湯量を調整しやすいケトルは蓋が落ちないフラップ式。マットな鋳物スタンドはインダストリアルな表情が実験器具のようで楽しい。ガラスサーバーは杯数目盛りつき。

道具とカップは壁面に造作したオープン棚に見せて収納。インテリアになじむモノトーンのアイテムが自然と集まった。電動ミルはフジローヤルの「みるっこ」。